

令和5年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(岡山県立真庭高等学校)

1. 取組についての評価

指定2年目なので、途中経過の報告である。3つの校地それぞれの事情がありながらも、各校地のバックグラウンドを生かした試みを行っている、というか行わざるを得ないという状況のようだ。

提供されている学習機会は、真庭組子の政策のような高度な伝統技能だったりCLT建材のような先端技術だったり幅広く、8社の協力を得て、順調に取組が進んでいるように見受けられる。また、「総合探究」との関連も検討されているのは、カリキュラム全体としてみたときには、とても重要なことだと思う。

成果に関して示された、2年間の生徒の意識調査は面白い傾向を示している。顕著なのは、経営ビジネス科と久瀬校地における「自己効力感」の変化である。専門高校に入学する生徒は、一部目的的に進学する生徒もいるが、おおむねそうではない。その生徒達の「自己効力感」がなぜ伸びたのかを検討するのは興味深い。逆に、落合校地では、地域の問題を学ぶに連れて地域に関する3項目の数値が下がっていることもうかがえる。

また、企業の方々が学校に入ってこられることによって、先生方の意識改革が行われたことについても触れられており、授業そのものの改革にもつながるよい試みを行っているように思われる。

2. 今後の課題と考えられること

来年度コミュニティ・スクール化するなかで、整理・統合する中いかにマイスター事業のこれまでの取り組みを活かすかを考えることが大事。各学科でどのような地域人材を輩出しようとしているか、それにマイスター事業がどう関わっているか、それと事業とは直接関係のない授業がどうつながっているか、ということも、地域に向けてよりアピールしていくことで、コミュニティ・スクールとしての認識が高まるのではないかと。

地域のイベントに参加することは、学習機会としてとても重要だが、学校の未来を考えると小中学校での出前授業は真庭高校への目的的な進学希望者を耕すという意味で大事にしたい。特に、中学校での総合的な学習が低迷する中、真庭高校の生徒が取り組んでいることは学習リソースとして有用なのではないだろうか。伝統工芸、アグリ農業、発電、発酵などに関して、中学校の時に学んださまざまな教科とのつながりも考えて、それを含めて中学生の総合的な学習のリソースとして出前授業やYouTube映像などの形で提供するなどといった情報発信の学習を検討してみるのも面白いのではないかと。